

# 校内研修計画

## 1 学校課題

本校の児童は、全体的に明るく、元気で、素直である。子供たち同士の仲は大変よく、休み時間や児童会行事では学年の枠を超えて遊び、諸活動においても上級生が下級生の面倒をよくみている。全校児童の一体感が見られる。少人数学級の特色を生かし、学習指導では児童一人一人に教師の目がよく行き届くことにより、児童の基礎学力向上が図られてきた。一方、児童が相互に切磋琢磨する場面が減少し、幼児期からの友人関係の固定化やダイナミックな活動が少なくなったことが課題としてあげられる。昨年度から複式学級となったので、子供同士の関わりに広がりが増えてきているが、自ら主体的に学び、自己判断し決定し表現していく力の育成が急務である。

そこで、小規模校の特性を生かしながら、児童一人一人に確かな学力を身に付けさせるとともに、全校縦割り集団を組織し、主体的で生き生きとした活動を数多く仕組んでいる。その中で、児童自らが気づき・考え・判断する力を育て自己表現力を伸ばせるよう、全校体制で取り組んできている。

また、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとかかわりもたせた「学級づくり」や「授業づくり」「地域保護者との連携」の実践も着実に成果をあげてきている。今年度もプロジェクトとの連携を深めながら、確かな学力の定着と向上を一層推進していきたい。

さらに、平成27年度から29年度に、文部科学省委託「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」の小規模校を存続させるためのモデル地区として、先進的なICT環境を活用した21世紀型地域創生事業の調査研究を行った。協働学習場面におけるICT機器の活用やICT機器を媒介としたコミュニケーション能力の醸成、地域資源を活用した主体的に学びにかかわる「ふるさと学習」の実践に取り組み大きな成果を得た。今年度も、研究の成果を生かした実践を継続し、深化させていきたい。

## 2 研究主題

「少人数学級における思考力・判断力・表現力等の育成」  
～アウトプットを意識した学習を通して～

## 3 主題設定の理由

文部科学省委託事業のモデル地区として、先進的なICT環境を活用した21世紀型地域創生事業の調査研究に取り組んだ成果を生かし、継続して授業の工夫と改善を行ってきた。その結果、児童は自分の考えを持ち、自分の考えを発表できるようになった。また、小規模校のため、同学年の児童数が少ないことにより多様な思考に触れられる機会が少ないという課題があげられたが、同期型CSCL(Computer Supported Collaborative Learning)を使った複数校との協働学習を仕組むことで、多くの児童の思考に触れることができ、それにより児童の思考を広げ、深めることができた。

今年も、先進的ICT環境を引き続き活用し、小規模校ならではの丁寧な指導と一人一人が学び・考え・行動できるよう、発表や活動の機会を保障することを通して、学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成を図っていきたい。

また、地域資源を活用した主体的な学びを実践し、それを情報として地域に発信する「ふるさと学習」に引き続き取り組む過程で、児童の思考や表現する力を育成していくことを目指したい。

## 4 研究の内容と具体的方法

### 【研究目標】

学習過程において、アウトプットを意識した授業の工夫と改善を図っていくことで、子供たちの主体性と思考力・判断力・表現力を育むことを目指す。

## (1) 授業づくり

### ①児童の実態把握

- ・Q-Uの分析

### ②一人一実践と研究授業の実施

- ・アウトプットを意識した授業の工夫と改善
- ・ICT環境を活用した実践(日常の授業の中での活用を図る)
- ・プログラミング教育のための学習会
- ・学校間ネットワークの交流実践の継続

### ②「ふるさと学習」の取り組み

- ・地域人材を活用
- ・地域との連携と情報発信
- ・「ふるさと学習」の発表会

## (2) 学習基盤づくり(甲州プロジェクトと関わって)

### ①Q-U調査の実施(2回)と分析,振り返り

### ②互いに認め合い,高めあえる集団づくりを目指した学級活動の取組

### ③「朝の基礎学習」の取組

### ④家庭学習や学習規律の確立の取組

## ○おおまかな年間計画

回数	月	日	研究テーマ	教科・領域	担当者	TC要請
1	4	3	昨年度の成果と課題 研究の方向性		研究主任	
2	4	14	研究主題・研究内容		研究主任	
3	4	27	基本計画・研究組織, 部会別研究計画		研究主任	
4	5	13	プログラミング学習会		ICT担当	
5	5	27	K13法によるh-QUの分析	集団づくり		
6	7	1	部会研究			
7	7	8	部会研究(QU分析の振り返り, 2学期の取り組み)	集団づくり	研究主任	
8	8	24	教育課程環流報告会	各教科	各担当	
9	9	2	部会研究			
10	9	9	部会研究			
11	10	7	部会別(一人一実践)		各学年	
12	10	21	部会別(一人一実践)		各学年	
13	10	28	部会別(一人一実践)		各学年	
14	11	18	K13法によるh-QUの分析 今後の取り組み	集団づくり	研究主任	
15	11	25	部会別(一人一実践)		各学年	
16	12	2	部会別(一人一実践)		各学年	
17	12	9	部会別(一人一実践)		各学年	
18	1	27	研究の成果と課題(部会)		研究主任	
19	2	17	研究の成果と課題(全体)		研究主任	
20	3	3	研究紀要の校正と修正		研究主任	
21	3	10	紀要原稿の確認と最終校正		研究主任	